

平成 20 年度（第 52 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

道 徳

中学校における道徳の時間の指導の充実に 関する研究

- 生徒へのアプローチの仕方を工夫した実践事例集の作成をとおして -

平成 21 年 1 月 7 日
岩手県立総合教育センター
長期研修生（1 年）
所属校 盛岡市立厨川中学校
長 島 香 乃 子

目次

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の内容と方法	1
1 内容と方法	1
2 授業実践の対象	1
研究結果の分析と考察	1
1 道徳の時間の指導の充実に関する基本構想	1
(1) 道徳の時間の指導の充実に関する基本的な考え方	1
(2) 生徒へのアプローチの仕方を工夫することの意義	2
(3) 実践事例集とは	5
(4) 道徳の時間の指導の充実に関する基本構想図	6
2 実践事例集作成にかかわる授業実践及び実践結果の分析と考察	7
(1) 授業実践の概要	7
(2) 実践結果の分析と考察	9
3 実践事例集の作成	11
(1) 実践事例集作成の要件	11
(2) 実践事例集の実際	12
(3) 実践事例集の活用	18
4 道徳の時間の指導の充実に関する研究のまとめ	18
(1) 成果	19
(2) 課題	19
研究のまとめと今後の課題	19
1 研究のまとめ	19
2 今後の課題	19

<おわりに>

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

新しい学習指導要領では、総則に道徳の時間が道徳教育の要であることが明記され、道徳の時間の教育活動全体における「補充、深化、統合」の役割が明確になった。さらに、道徳の時間は道徳教育の中核的な役割を担うものであり、当然のこととして行うべきものであることも強調された。その中で、道徳の時間の指導に当たっては、体験活動を指導に生かすなどの創意工夫ある指導を行うこと、感動を覚えるような魅力的な教材の開発と活用を行うこと、表現する機会を充実し、自らの成長を実感できるような指導を工夫することなどが求められている。

しかし、道徳の時間の指導を見ると、生徒の実態や教材に応じたアプローチの仕方の工夫がなされず、パターン化された指導になりがちである。

このような状況を改善するためには、生徒が興味関心をもちやすい教材やこれまでの体験活動と関連させやすい教材を選定し、自分の考えを表現したり討論したり、効果的に「心のノート」を活用したりする道徳の時間の授業を創造し、実践事例集として提示していくことが必要である。

そこで、この研究は、生徒へのアプローチの仕方を工夫した実践事例集を作成し、中学校道徳の時間の指導の充実に役立てようとするものである。

研究の方向性

中学校における道徳の時間の指導の充実を図るため、教材や補助資料、心のノートの活用や表現の機会、指導過程など、アプローチの仕方を工夫した道徳の授業の実践事例集を提示する。

研究の内容と方法

1 内容と方法

- (1) 道徳の時間の指導の充実に関する基本構想の立案（文献法）
- (2) 実践事例集作成にかかわる授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践，質問紙法）
- (3) 実践事例集の作成
- (4) 道徳の時間の指導の充実に関する研究のまとめ

2 授業実践の対象

盛岡市立厨川中学校 第1～3学年

研究結果の分析と考察

1 道徳の時間の指導の充実に関する基本構想

- (1) 道徳の時間の指導の充実に関する基本的な考え方

ア 道徳の時間の指導とは

道徳の時間は、生徒一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達の段階に即して内面的に自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である。この特質を理解し、生徒の実態に即した、適切な指導を展開する必要がある。

道徳の時間の指導は、よりよい生き方について生徒が互いに語り合うなど学級での温かな心の交流があって効果を発揮する。そして、道徳の時間の指導の目指すものは、生徒自らが時と場に応じて望ましい道徳的な行為がとれるような内面的資質を高めることにある。

道徳の時間の主題を自分の問題として受け止めることができるように指導を工夫し、興味や関心を高められるように配慮することが大切である。

以上のような「中学校学習指導要領解説道徳編（2008）、指導の基本方針」の内容から、生徒の実態をとらえ、生徒が道徳的価値を内面的に自覚できるような工夫を行った指導を行うことが道徳の時間の指導である。

イ 道徳の時間の指導の充実とは

「中学校学習指導要領解説道徳編（2008）、指導の基本方針」に述べられているが、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳の時間は、道徳教育を補充、深化、統合する時間であり、道徳の時間の指導は年間指導計画に基づき、計画的に展開されなければならない。そして、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げていく必要がある。

そのためには、学校としての指導体制の充実を図るとともに、道徳の時間にどのような指導を行えば、生徒に道徳的価値を内面的に自覚させられるのかを具体的に工夫し示していくことが重要である。

体験を振り返りながら道徳の授業を進める方法や、生徒が表現する機会を意図的に作り、自分の内面や他との対話を深める指導の方法や自分の考えを具体的な態度を交えて発表させる方法、心のノートを活用した指導の方法など、手立てを具体的に工夫した道徳の授業を行うことで道徳の時間の指導の充実が図られる。

また、年間指導計画の中にアプローチの仕方を工夫した授業を数時間でも位置付けることは、道徳の時間の指導の充実の一助となる。

ウ 生徒の実態に合わせた道徳の時間の指導とは

「中学校学習指導要領解説道徳編（2008）、道徳教育改訂の趣旨」では、中学校における道徳の時間においては、思春期の特質を考慮し、社会とのかかわりを踏まえ、人間としての生き方について自覚を深める指導を重視することの大切さが述べられている。そのために、役割演技などの具体的な場面をとおした表現活動を生かしたり、教材について工夫したり、書く活動や語り合う活動など自己の心情・判断等を表現する機会を充実し、自らの道徳的成長を実感できるようにしたりすることなどが求められている。また、「中学校学習指導要領解説道徳編（2008）、指導の基本方針」では、教師は自らの個性を十分に生かして指導に当たることが望ましく、教師の人間味ある指導のもとでこそ、生徒が充実感をもって話し合い、考えるような指導が展開できると述べられている。

以上のようなことから、教師が意欲的に新しい指導方法に取り組み、自分自身の個性を生かせる指導方法を多く身に付け、生徒と共に生き方を考えていこうとする姿勢をもつことは道徳の時間の指導にとっては欠かせないことである。

教師が意欲的に指導に当たることが、生徒の実態を考慮した指導につながり、道徳の時間が生徒にとって興味関心のある時間となっていく。そのことが、道徳の時間が自分の問題として生徒に考えを深めさせることにつながるのである。

(2) 生徒へのアプローチの仕方を工夫することの意義

ア 本研究におけるアプローチとは

一般的にアプローチは、「近づくこと。対象とするものに迫ること。また、その方法。」というような意味をもち広く使われている言葉である。

本研究におけるアプローチとは、道徳の授業において教師が生徒にどのような方法で道徳的価値を内面的に自覚させていくかという、指導の手立てとする。

「学習指導要領解説道徳編（2008）」の「第5章第3節学習指導の多様な展開，第4節道徳の時間の指導における配慮とその充実」を参考にすると、様々なアプローチが考えられる。その中で「指導する教師が授業のために時間をかけて調べたり探したりすることなく，容易に実施できるもの」を授業で再現しやすいアプローチととらえ，その視点でまとめると12項目になる。それらのアプローチを，「教材に対するアプローチ」「表現の機会としてのアプローチ」「指導過程に対するアプローチ」の3つに大別したものが【表1】である。

【表1】本研究のアプローチ

アプローチ		
教材に対して	表現の機会として	指導過程に対して
<ul style="list-style-type: none"> ・開発教材 ・体験や体験活動との関連への配慮 ・補助資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員発表 ・役割演技 ・グループの話合い ・ワークシート ・心のノート ・学級掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいにせまる導入，終末 ・精選された発問 ・簡潔な板書

イ 本研究におけるアプローチの仕方のとらえ

「中学校学習指導要領解説道徳編（2008）」，多様な学習指導の展開，道徳の時間の指導における配慮とその充実」を参考に，本研究における12項目のアプローチの仕方を示す。

(ア) 開発教材について

「ねらいを達成するのにふさわしいもの」「生徒の興味や関心，発達に応じたもの」「体験活動や日常生活等を振り返り，道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの」であることが満たされる教材を指す。自作資料を中心として考えるが，新聞記事，心のノート，既存の道徳読み物資料についても，条件が整えば教材として扱う。

本研究は，教師が自ら調べたり探したりすることなく，すぐに授業で使える再現しやすい教材を示すこと前提とするため，映像や音楽，授業中の講話等の教材は用いないこととする。また，1時間の中で生徒が理解しやすい内容や分量を扱うこととし，生徒に事前に読ませておく必要がない教材を扱うこととする。

(イ) 体験や体験活動との関連への配慮について

日常で体験していると考えられる内容が題材となっている読み物資料や自作のワークシート，教材を使うこと，日常の体験を想起する問いかけをすることに配慮する。また，体験活動は，どの学校でも明らかに実施していると考えられるものだけを取り上げる。

(ウ) 補助資料について

道徳の時間に活用する中心教材の特性を生かし，生徒が内容により興味をもち理解を深められるよう，主題のねらいにかかわる新聞記事や時代背景，歴史的な事柄をまとめたものを補助資料とする。DVDや絵画，写真，スライドなど，映像を使い視覚に訴えるものや音楽などの聴覚に訴えるものは，教師自らが改めて準備をしないといけないため，本研究では補助資料の中には含めない。

(エ) 全員発表について

道徳の時間に行われる話合い活動の方法として，学級の生徒全員の考えを発表させる授業展開を考える。全員が発表する時間であるという意識を生徒にもたせることで，生徒は自分の考えを表現

しやすくなり、自分自身以外の多くの考えに触れることも可能になる。道徳的なものの見方や考え方を深めていくことにつなげるための全員発表とするため、機械的に発表させていくのではなく自発的に発表させるように働きかける。

(イ) 役割演技について

簡単な動作化やコミュニケーションを深めるための活動や役割を決めて台詞を考えて表現する活動を取り入れることは、自分自身の問題として深くかかわり、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的理解を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けることに資するものである。この考えに基づき、役割を決めて台詞を考えて発表することの他に、自分の考えを述べるだけでなく、表情や態度を意識させた発表も含めて役割演技とする。

(カ) グループの話合いについて

道徳の授業の途中に、短時間で、二人一組の対話や小集団による話合いをさせることをグループの話合いとする。友だちの考えを聞くことで自分の考えを深め、自信をもって発表することにもつながる。

(キ) ワークシートについて

自分の考えを書く活動をすることで、自分自身のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたりしながら今までの自分のものの見方や考え方、感じ方などを振り返ることができる。そのため、基本発問に対する自分の考えをまとめられるワークシートを用意し、書かせたあとで発表させていくこととする。

(ク) 心のノートについて

道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるよう、導入・終末での活用だけではなく、中心教材としての活用も図る。導入の活用では生徒にねらいを意識させ、中心教材としての活用では、具体場面での考えを生徒に自由に発想させ、終末の活用では、ねらいと自分自身を関連させながら考えをまとめさせる等、様々な場面での活用を図る。

(ケ) 学級掲示について

終末で生徒に考えをまとめさせた場合、その考えを交流する時間がないため、記入内容を学級に掲示することで考えの交流を図ることとする。友だちの考えについての理解を深められるだけでなく、自分自身の考えを改めて振り返ることにも役立つ。

(コ) ねらいにせまる導入、終末について

「中学校学習指導要領解説道徳編（2008）、学習指導の多様な展開」に述べられている、学習指導過程は、いたずらに固定化したり形式化したりすることなく、各段階での多様な工夫をすることが大切である、導入は、主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起する段階である、という考えに基づき、道徳の時間の学習指導過程には多様な指導の工夫が考えられる。

しかし、本研究は再現しやすい授業であることを前提にしているため、導入には補助資料の活用や体験の想起、心のノートの紹介を取り入れ、学級の実態を紹介するアンケート調査や映像、音楽などの紹介等は用いないこととする。

また、終末には、心のノートへの記入や音読、ワークシートへの記入を取り入れ、生徒一人一人が自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感できるような工夫をする。

(ク) 精選された発問について

道徳の時間の指導は、教師による発問の適否によりその指導効果が大きく変わる。具体的に何に

ついて生徒に考えさせるか、具体的な発問を準備する必要がある。1時間の道徳の時間の中で、ねらいの根底にある道徳的価値を自分の問題として受け止められるよう、中心教材として扱う資料に沿って、吟味した発問を構成する。そして、補助発問がなくてもねらいに沿った考えが発表できる発問としていく。

(シ) 簡潔な板書について

板書は生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなる。そのため、生徒の思考の流れや順序を示すような板書にするとともに、板書量にも配慮する。

ウ 生徒へのアプローチの仕方を工夫するとは

本研究では、道徳の授業において、12項目のアプローチをどのように組み合わせるのかをアプローチの仕方の工夫とする。

1時間の授業の中で、導入、展開、終末のそれぞれの段階に12項目中、最低1項目のアプローチを位置付けていくこと、さらに、大別してある、教材に対するアプローチ、表現の機会としてのアプローチ、指導過程に対してのアプローチの中から最低1項目、計3項目以上のアプローチを位置付けていくこと、のどちらにも配慮することで複数のアプローチを組み合わせた道徳の授業展開が考えやすくなる。

12項目のアプローチを道徳の授業でどのように組み合わせるのか、アプローチの仕方の工夫例を以下の【図1】に示す。

使用するアプローチ		
導入	・開発教材 ・体験や体験活動との関連への配慮	教材に対して 教材に対して
展開	・簡潔な板書 ・精選された発問 ・ワークシート ・全員発表	指導過程に対して 指導過程に対して 表現の機会として 表現の機会として
終末	・補助資料 ・心のノート ・学級掲示	教材に対して 表現の機会として 表現の機会として

【図1】アプローチの仕方の工夫例

(3) 実践事例集とは

ア 実践事例集作成の意義

道徳の時間に広く見られる、読み物資料を中心教材として扱い、資料の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える授業ばかりでは、生徒にいろいろな角度から人間としての生き方について深く考えさせることができない。

そのため、生徒に提示する教材そのものに工夫を加える、今までの様々な体験や体験活動との関連で考えさせる工夫をする、意見交流を活発に行わせるような工夫をするなど、道徳の時間の指導の手だてそのものに工夫を加え、いろいろな指導方法を使いながら、生徒の内面にせまっていく必要がある。

道徳の時間のアプローチの仕方を工夫した指導方法を用いることは、道徳の時間そのものが生徒にとって魅力ある時間となり、自分の生き方について深く考ようとする意欲を高めることにつながる。意欲的に自分の生き方について深く考えることによって、自らの成長を実感でき、よりよく生きるための道徳的実践力の育成が図られる。

実践事例集に示す、教材ごとにアプローチの組合せを変えた複数の指導方法の中から、授業で

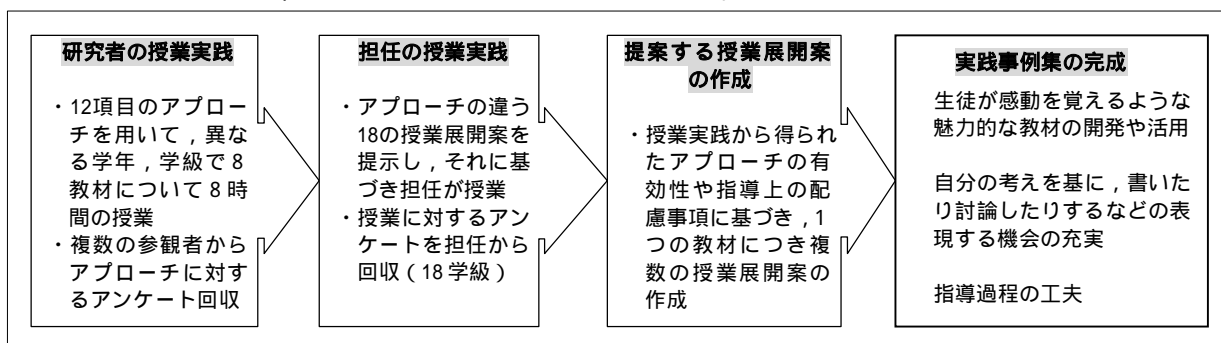
使いたい指導方法を選ぶことは、教師にとって、今までの指導方法を見直すきっかけとなる。また、実践事例集の授業展開案を用いて授業を行うことにより、教師は新たな指導方法に気付き、自分自身で新たな指導方法を創り上げていくきっかけとなる。いつもとは違う指導方法の授業により、生徒は新たな角度から考えることができる。これらのことにより、これまでのパターン化された指導から、生徒に充実感と成長を実感させられるような生き生きとした道徳の時間の指導につながっていく。

イ 実践事例集作成の手順

8教材で8時間の授業実践を行い、12項目のアプローチの有効性を確かめる。実践する授業は、アプローチの有効性を確かめるための授業実践とし、1時間の中で多くのアプローチを実施してみる。実践する授業に対する複数の授業参観者からのアンケートを基に、アプローチの仕方の工夫への改善を加えていく。

8時間の授業実践後に、再現がしやすく、ねらいにせまるために有効であると考えられるアプローチの組合せの授業展開案を作り、所属校の18学級の担任に実践してもらおう。実践した担任からのアンケートを基に、展開案にさらに改善を加えたものを実践事例集に提示していく。

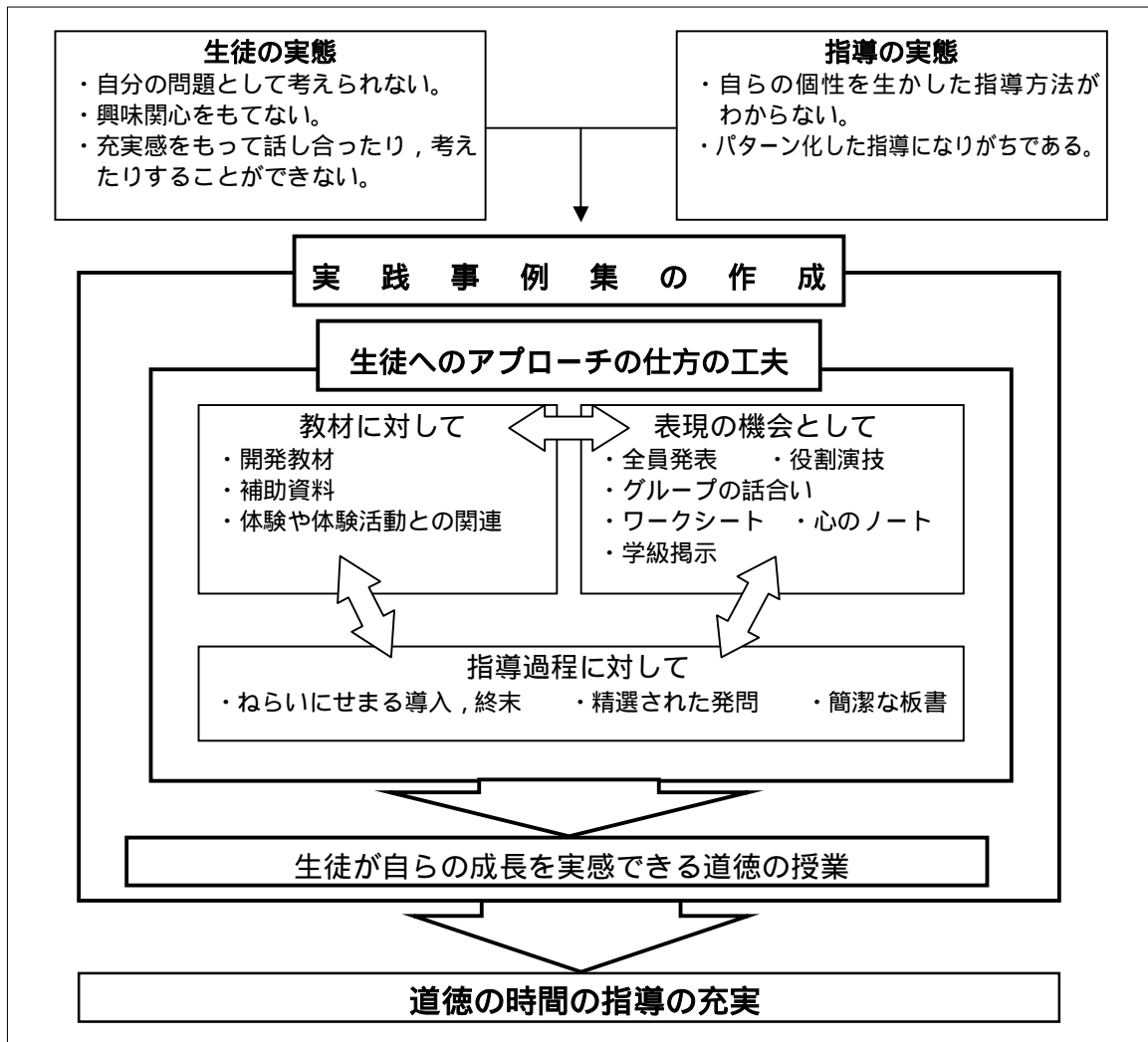
以下の【図2】に、実践事例集作成までの手順を示す。



【図2】実践事例集作成の手順

(4) 道徳の時間の指導の充実に関する基本構想図

これまで述べてきた考えに基づき、中学校における道徳の時間の指導の充実に関する基本構想図を【図3】のように作成した。



【図3】道徳の時間の指導の充実に関する基本構想図

2 実践事例集作成にかかわる授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 授業実践の概要

ア 研究者による授業実践について

3頁【表1】の12項目それぞれのアプローチの有効性とアプローチの仕方を確かめるために、異なる学年・学級で8時間の授業実践を行った。実践した授業の主題名，教材名，試したアプローチ，授業展開の概要，生徒の反応を，以下の【図4】に示す。

8時間という限られた時間の中で12項目すべてのアプローチの有効性を確かめていくために，1時間の授業の中で，できるだけ多くのアプローチを試しながら実践をした。

主題名・教材名<実践学年>	実践した授業の概要
実践で試したアプローチ	生徒の反応
1-(1)望ましい生活習慣 「遊ぶ」こと (自作資料) <1年生>	「遊ぶ」ことは，電子ゲームに対する考えや道具を使わずに遊ぶことについてまとめた自作の読み物資料である。誰もが必ず体験している「遊び」は，生活に欠かせないものである反面，生活のリズムを乱すことにつながりやすい側面も持っている。「遊び」について考えさせることをきっかけとして自分の生活習慣を見直させ，心のノートの活用により自分の生活にとって大切にしていききたい生活習慣を考えさせる授業展開とした。 生徒は，けじめをつけた生活が大切である，これからは時間を大切に生活していきたい，という思いをもった。
開発教材・体験との関連 全員発表・グループの話合い ワークシート・心のノート 学級掲示・導入終末・発問 板書	

<p>2-(1)礼儀 礼儀知らずは恥知らず？ (心のノート) <1年生></p> <p>開発教材・体験との関連 全員発表・役割演技 グループの話し合い ワークシート・学級掲示 導入終末・発問・板書</p>	<p>礼儀や T.P.O.について分かりやすくまとめられた心のノートの内容が主教材である。心のノートのイラストを使い、礼儀のある態度や表情、言葉遣いを具体的に考えさせ、それを表現する役割演技での発表を行わせることにより、礼儀を意識した適切な言動とはどのようなものであるかを考えさせる授業展開とした。また、生徒に役割演技で発表させる具体場面は、先輩、後輩間でのあいさつの仕方についてであるため、考えやすく発表しやすい内容とした。</p> <p>生徒は今までの態度を振り返りながら、ただ、あいさつをしたりお辞儀をしたりするだけではなく心を含めてあいさつをしたい、これからは礼儀を意識しその場に合うようなあいさつの仕方を考えてきたい、礼儀をわきまえながら生活していきたい、という思いをもった。</p>
<p>2-(6)感謝 コミュニケーションは心のキャッチボール(心のノート) 自作資料のワークシート <2年生></p> <p>開発教材・体験との関連 役割演技・グループの話し合い ワークシート・学級掲示 導入終末・発問・板書</p>	<p>内容項目2-(6)は、平成21年度から新しく加わる項目である。心のノートの「コミュニケーションは心のキャッチボール」という内容を考えさせ、自作の具体場面が記入されたワークシートを活用して、実際にどのように表現すれば相手に感謝の気持ちが伝わるかを考えさせる授業展開とした。また、直接、気持ちを伝える状況だけではなくメールで伝える状況についても考えさせ、情報モラルにも配慮した。</p> <p>生徒は、具体的な内容で相手の立場になって物事を考えることが出来た、言葉で伝えるだけではなく表情や態度も本当に大切だと思った、という思いをもった。</p>
<p>3-(3) 生きがいのある人生 出会い (自作資料) <2年生></p> <p>開発教材・全員発表 ワークシート・心のノート 学級掲示・導入終末・発問 板書</p>	<p>馬ッコ本舗二代目社長、宮澤さんが菓子職人として一人前になるまでをまとめた自作の読み物資料である。突然菓子職人になった苦勞を乗り越え、社長になった今も、夢をもってそれに向かい生きている宮澤さんの考え方が記されており、自分はどのように生きたいのかを、生徒に深く考えさせられる資料である。読み物資料には、関連する価値がいくつか入っているため、一つのねらいで考えを深めていけるような心のノートを活用した授業展開とした。</p> <p>生徒は、自分で満足できる生き方をしていきたい、夢を見つけてその夢に向かって頑張りたい、あきらめずに明日や未来を見て前向きに進みたい、という思いをもった。</p>
<p>4-(5)勤労・奉仕 一粒の種から-山室機恵子- (中学校道徳資料「わたしたちの郷土をみつめて」より) <3年生></p> <p>補助資料・全員発表 グループの話し合い ワークシート・心のノート 学級掲示・導入終末・発問 板書</p>	<p>平成11年に岩手県教委が発行した道徳の読み物資料である。日本で最初の結核療養所建設のために尽力した、花巻市出身の山室機恵子の働きが記されている。明治時代の内容であるため、補助資料で時代背景を紹介し、様々な困難を乗り越えながら働きとおした機恵子の気持ちを考えやすくした。また、機恵子だけではなく現役の寿司職人として活躍している方の仕事に対する考え方が記された新聞記事を紹介することで、働くことに対する考えを深められる授業展開とした。</p> <p>生徒は、誰かのためにあきらめずに役に立つとすることはいいことだと思った、自分も人の役に立つことをしたい、どんな仕事でも働くことは誰かの役に立ち社会に貢献している、という思いをもった。</p>
<p>4-(8)郷土愛 「幻の神楽」復活への道のり (中学校道徳資料「わたしたちの郷土をみつめて」より) <1年生></p> <p>補助資料・体験との関連 全員発表・ワークシート 心のノート・学級掲示・発問 板書</p>	<p>平成11年に岩手県教委が発行した道徳の読み物資料である。神楽の練習に取り組んだ中学生である「わたし」の気持ちを考えさせることで、自分が郷土の発展のためにできることは何かを考えさせられる資料である。資料へ興味をもたせ、神楽以外の自分が知っている身近な郷土芸能を想起させながら、自分のこととして具体的に考えさせていくために、郷土芸能について紹介する補助資料と心のノートを活用した授業展開とした。</p> <p>生徒は、さんさ踊りでの体験を思い出しながら自分を見つめ直し、これからはふるさとの様々な郷土芸能を体験して伝えていきたい、という思いをもった。</p>
<p>4-(8)郷土愛 浄法寺塗 (中学校道徳資料「わたしたちの郷土をみつめて」より) <2年生></p> <p>補助資料・体験との関連 役割演技・グループの話し合い ワークシート・心のノート 学級掲示・発問・板書</p>	<p>平成11年に岩手県教委が発行した道徳の読み物資料である。課題学習で岩手の伝統工芸品である浄法寺塗について調べる班が取り上げられた内容である。班の話し合いや体験学習のようすが具体的に記されており、自分たちの体験と重ね合わせやすい資料である。浄法寺塗についての補助資料と心のノートを活用することで、一つの伝統工芸品を守り伝えることの難しさを実感させながら、郷土のために自分にできることを考えさせていける授業展開とした。</p> <p>生徒は、浄法寺塗の歴史の深さや職人の思いを理解することで、身近な伝統工芸品を守りたい、継承しなくてはいけない、という思いをもった。</p>

<p>4-(8)郷土愛 黄金の國、いわて。 (岩手県総合政策室広聴広報課発行) <3年生></p> <p>開発教材・体験との関連 全員発表・役割演技 グループの話合い ワークシート・心のノート 学級掲示・発問・板書</p>	<p>岩手県が岩手の特色をまとめた「黄金の國、いわて。」が主教材である。金色の表紙、岩手の様々な特色をテーマごとにカラー写真と短い文章でまとめた内容、県知事とNHKドラマ「どんと晴れ」に出演していた鈴木蘭々さんとの対談により構成されている。書かれている内容を紹介することで、今まで気付かなかった岩手の良さの理解につながる。心のノートも活用し、郷土の発展のために自分も何かをしたいという思いをもたせる授業展開とした。</p> <p>生徒は、岩手はとて素晴らしい誇れる県だと思った、岩手の良いところを多くの人に知ってもらえるようにしたい、もっと岩手にふれあって自分で実感したい、という思いをもった。</p>
--	---

【図4】研究者の授業実践の概要

イ 担任による授業実践について

研究者自身の8時間の授業実践を受けて、1教材につき複数の指導方法の展開案を作り、所属校の18学級の担任に授業を行ってもらった。

18の指導方法について、ねらいを考えさせていく上で効果的な指導方法となっているか、再現しやすい授業展開案になっているかを担任に確かめてもらい、アプローチの仕方の配慮事項をまとめた。それを基に授業展開案に改善を加え、実践事例集として提案していく。

以下の【表2】に指導実践を行った教材名と主なアプローチを示す。主なアプローチを組み合わせた指導方法にそれぞれA, B, Cをつけて表していくが、これは便宜的なものである。

【表2】担任の授業実践の概要

主題名	教材名 <実践学年>	使用する主なアプローチ
1-(1)望ましい生活習慣	「遊ぶ」こと <1年生> (自作資料)	A ワークシート 全員発表
		B 発問 全員発表
2-(1)礼儀	礼儀知らずは恥知らず? (心のノート) <1年生>	A 役割演技 役割演技
2-(6)感謝	コミュニケーションは心のキャッチボール (心のノート) <2・3年生>	A ワークシート 全員発表
		B 発問 全員発表
		C グループの話合い 全員発表
3-(3)生きがいのある人生	出会い (自作資料) <2・3年生>	A ワークシート 全員発表
		B 発問 全員発表
4-(5)勤労・奉仕	山室機恵子-一粒の種から- (中学校道徳資料) <2・3年生>	A ワークシート 全員発表
		B 発問 全員発表
4-(8)郷土愛	「幻の神楽」復活への道のり (中学校道徳資料) <1・3年生>	A ワークシート 全員発表
		B 発問 全員発表
		C グループの話合い
	浄法寺塗 (中学校道徳資料) <1・2年生>	A ワークシート 全員発表
		B 発問 全員発表
		C グループの話合い 役割演技
	黄金の國、いわて。 (岩手県発行) <2・3年生>	A ワークシート 全員発表
		B グループの話合い 役割演技

(2) 実践結果の分析と考察

研究者の授業実践と担任の授業実践をとおして得られた生徒の感想や教師のアンケートから、アプローチごとの有効性とアプローチの仕方の配慮事項として考えられることを、以下の【表3】に示す。

【表3】アプローチの有効性とアプローチの仕方の配慮事項

	アプローチ	有効性	配慮事項
教材 対して	開発教材	生徒が考えやすい話題を取り上げた内容であったこともあり、様々な考えが出やすく自分を振り返りながら考え深め交流させていく資料として活用できる内容であった。	読み物資料として開発したのではなく、一般向けの資料を扱う場合は、漢字が難しく、教師の範読にも時間がかかるものがある。そのような場合は、事前の練習や、録音するなどの準備が必要であることを明記したい。
	体験や体験活動との関連への配慮	使用する読み物教材と生徒の体験との接点を考えた発問をすることによって、生徒は自分自身の体験と関連させながら考えることができ、授業そのものへの意欲にもつながった。	体験を想起させる発問をすると、思い出させようとして、時間を使いすぎることがある。どの程度の時間をかけられるか、どの程度の反応があればよいのかを示していくことが必要である。
	補助資料	体験がない場合や時代が分からない場合は、教材の内容への興味をもたせるために補助資料の活用は有効であった。また、読み物資料からはなれて自分自身のことを深く考えさせるためにも有効であった。	補助資料の紹介に使える時間を考えながら、補助資料の内容を精選していく必要がある。多少、内容が難しくても、事実を知ることによって感動が生じることを考え合わせ、補助資料を作成したい。
表現 の 機会 として	全員発表	様々な表現の方法で全員に発表させることは、発表へ向けて自分の考えを真剣にまとめたり、意欲的に発表を聞いたりすることにつながった。授業に参加した意識をもたせながら全員の考えを聞けることで、主体的にねらいを考えることにつながり、授業にも活気が出た。	普段の授業の中で、発表の機会がない場合は、発表することそのものに生徒が抵抗を感じるため、あらかじめ、どのような考えでもいいから答えられるところで全員が発表する時間であることを生徒に納得させて進めていく必要がある。さらに、強制的に発表させるのではなく、自発的に発表できる雰囲気をつくるためにも、どのような考えに対しても教師の受容的態度は欠かせない。また、同じような考えの生徒から発表させていくなど、生徒が安心感をもって発表できる雰囲気をつくることも必要である。
	役割演技	考えていることがより具体的な形で発表でき、生徒も楽しみながら発表したり聞いたりできた。	役割を分担する時、普段の人間関係が悪い方向に出る場合があるので、人間関係を観察した上で、必要であれば座席を移動させて意図的にグループを作り直したり、教師が演じる役割を固定したりする等の配慮が必要である。
	グループの話し合い	まとめられない自分の考えを、班員や友人の考え聞きながらまとめることができ、自信をもって発表することにもつながった。	グループの人数が多くなる場合は、話し合いの進行係への指導が必要になる。座席が隣同士のパアであれば、短時間での話し合いが可能であるが、人間関係によっては成立しない事がある。学級の実態に応じた人数設定や話し合いの指導をしていく必要がある。
	ワークシート	発問に対する自分の考えをまとめてから発表できるため、挙手での発言につなげやすい。また、グループの話し合いや具体的な事例を考えさせるときの活用でも、生徒の話し合いや考えを深めさせることにつながる。	自分の考えをまとめるためのワークシートであり、書かせた後で発表につなげていくためのものであるため、ワークシートに書かせる内容と時間を十分に吟味する必要がある。発表を聞くことで考えが変わることがあることにも考慮し、ワークシートに書かれていない内容を発表すること、発表を聞きながらワークシートに書き足したり書き直したりすることを認めながらワークシートを活用することが大切である。
	心のノート	授業のねらいを自覚させることに役立つ、ねらいに対する自分の考えを深めることに役立つ。特に新聞記事や冊子などの開発教材を使う場合は、ねらいをしばり、考える方向性を生徒に示していける。	心のノートそのものへ書き込む場合は、記入後に考えの交流ができないため、あらかじめワークシートの中に心のノートの内容を組み込むなどして、発表することを前提に生徒に記入させ、学級掲示や発表につなげていく必要がある。また、そうすることで、保護者との交流にも発展させていける。
	学級掲示	発表できなかった内容も掲示することで、考えの交流になる。また、考えた内容を後日改めて振り返ることもできる。	授業終了後すぐに回収し、その日のうちにすぐに掲示することで、授業で出来なかった交流につながる。掲示までに時間がかかるようであれば、学級通信などでの紹介もある。あらかじめ、掲示することを前提にした大きさの用紙に記入させ、表題等をつけずに台紙にどんどん貼ってあげれば、1学級20分程度で簡単に掲示できる。掲示する場合は、その日のうちに掲示すること、短学活などの機会をとらえて掲示の内容に簡単にふれることが大切である。また、長い期間掲示せずに、次の道徳の時間等早い時期に生徒に返却し、ファイリングさせていくことも大切である。

指導過程に対して	ねらいにせまる導入，終末	中心教材の内容によって，導入や終末で心のノート，補助資料，新聞記事，「黄金の國、いわて。」や体験との関連を考えさせる発問の活用は，ねらいをとらえさせ，読み物資料をはなれて，これからのことを深く考えさせることに効果があった。	導入は，時間をかけすぎないことが大切であるが，短すぎても生徒を引きつけられないので，自分を振り返る時間を取りつつも，短時間で切り上げられるように示していく必要がある。 終末では，ねらいに対する自分自身の考えを深めさせられるよう，自分の考えをまとめる時間を確保する必要がある。
	精選された発問	ワークシートを活用する場合は，記入する時間の確保が必要になるため，発問を今まで以上に精選する必要がある。実践した授業では，ねらいにせまるために生徒が深く考えていける発問であった。	提示した言葉をそのまま生徒に投げかければ生徒がねらいに沿って考えられるよう，発問を吟味しなければならない。また，再現しやすい授業にするためには，補助発問をしなくても基本発問だけで，ねらいに沿った考えが生徒から出されるようにしなくてはならない。
	簡潔な板書	できるだけ言葉を減らすことで心情変化などがより明確な板書になるとともに，授業の流れを止めずに発表の時間を確保できることにつながる。色分けや吹き出し等もあり，わかりやすく考えやすい板書であった。	どのタイミングで，どのように板書すればよいかを示していくことが大切である。生徒の発表をしっかりと受け止められるように，授業の前半部分で板書をすべて終わらせる，あるいは，生徒がワークシートに考えをまとめている時間を利用して板書を行うなどの具体的な方法を示す必要がある。

異なる学年で同じ教材を扱った授業を行った場合は，基本発問や心のノートの内容に対するワークシートの書き込みや発言の内容などから，学年が上がるにつれて自分自身を振り返りながら深く考えられるようになることがわかった。

また，心のノートの内容である「コミュニケーションは心のキャッチボール」と自作資料のワークシートを組合せた授業については，4～5月の学級の人間関係づくりの時期の実施であれば，学級づくりに効果があるのではないかということ，補助資料や教師が範読する教材の量についても，授業時間内で扱える量，教師や生徒の理解のしやすさの点からまとめ直した方がいいものもあること，生徒と共に授業を作り，生徒の考えを深めていこうとする教師の意欲が，生徒に道徳的価値を自覚させていくために一層の効果をもたらすことなどがわかった。

さらに，生徒に役割演技やグループの話し合いをさせるなど，表現させる機会を多く取り入れた指導方法を効果的に実践するためには，道徳の授業だけではなく，他教科や日常の様々な場面での取組が重要であることもわかった。

以上のような，実践をとおして得られたことを生かして実践事例集を作成する。

3 実践事例集の作成

(1) 実践事例集作成の要件

実践事例集は，教材ごとに中表紙で仕切ってまとめていくが，生徒の実態や指導の実態に応じて指導方法を選択できるように，一つの教材に対してアプローチの組合せを変えた複数の指導方法を提案していく。このとき，指導方法ごとに便宜的にA，B，Cをつけて表記していく。

実践事例集には，原則としては実践をとおした授業展開案を示す。

目次は，ねらいと教材，それに対する指導方法の特徴が見える一覧表形式のものと文章で指導方法をまとめたものを作り，中表紙で仕切りながら，教材ごとの展開案，板書計画，補助資料，ワークシート，自作資料等を綴る。補助資料，ワークシート，自作資料等はそのまま印刷して授業で使えるような形で綴じ込む。以下の【図5】に，実践事例集の構成を示す。

道徳授業 実践 事例集	目次 ・ねらいと教材名， 主なアプローチ がわかる一覧表 ・文章でまとめた 目次	中表紙 主題名・教材名・ねらい 主題・ねらい・教 材について 実践したときの 先生や生徒の声	中表紙裏 ・略案の 一覧表	・アプローチの違 う指導方法の 授業展開案 (2 ~ 3)	・板書計画 ・補助資料 ・ワークシート ・自作資料 ・使用する読み物 資料等
----------------------------	--	--	----------------------------	--	---

【図5】実践事例集の構成

(2) 実践事例集の実際

ア 目次

実践事例集の目次は2種類とし、【資料1】にはアプローチの特徴と主題名・教材名から展開案のページが調べられる目次、【資料2】にはアプローチを文章化した目次を示す。目次内のページの数字は案である。

【資料1】表からページが読み取れる目次（案）

主なアプローチ 主題名・教材名	ワーク シート	発 問	グループの 話合い	役割演技	板書計画・補助資 料・読み物資料等
1-(1)望ましい生活習慣 「遊ぶ」こと（自作資料）	1・2 ページ	3・4 ページ			5～10 ページ
2-(1)礼儀 礼儀知らずは恥知らず？（心のノート）			11・12 ページ 13・14 ページ 15・16 ページ		17～20 ページ
2-(6)感謝コミュニケーションは心のキャッチボール（心のノート）自作資料（ワークシート）	21・22ページ	23・24ページ	25・26 ページ		27～30 ページ
3-(3)生きがいのある人生 出合い（自作資料）	31・32ページ	33・34ページ			35～40 ページ
4-(5)勤労・奉仕 一粒の種から- 山室機恵子-（中学校道徳資料）	41・42ページ	43・44ページ			45～50 ページ
4-(8)郷土愛 「幻の神楽」復活 への道のり（中学校道徳資料）	51・52ページ	53・54ページ	55・56ページ		57～61 ページ
4-(8)郷土愛 浄法寺塗 （中学校道徳資料）	63・64ページ	65・66ページ	67・68 ページ		69～72 ページ
4-(8)郷土愛 黄金の國、いわて。 （岩手県総合政策室広聴広報課）	73・74ページ		75・76 ページ		77～80 ページ

【資料2】指導方法を文章でまとめた目次（案）

4 - (8) 郷土愛 「幻の神楽」復活への道のり（中学校道徳資料【わたしたちの郷土をみつめて】）	
ワークシートを使い，考えを書かせてから発表させていく指導方法の展開案，板書計画 （ワークシート 全員発表）	51・52 ページ
発問しながら，それに対する考えを発表させていく指導方法の展開案，板書計画 （発問 全員発表）	53・54 ページ
グループの話合いを取り入れる指導方法の展開案，板書計画 （グループの話合い）	55・56 ページ
ワークシート	57 ページ
補助資料（共通）	58・59 ページ
読み物資料（共通）	60・61 ページ

イ 中表紙

教材ごとに中表紙で仕切るが、中表紙には教材ごとの主題やねらいのとらえ方、おおまかな授業展開の仕方、実践時の生徒や教師の声、活用してほしい場面を記入し、その教材を使ったときの道徳の授業が予想できるものとする。【資料3】に『「幻の神楽」復活への道のり』の中表紙を示す。

【資料3】中表紙（案）

4 - (8) 郷土愛

「幻の神楽」復活への道のり（岩手県教育委員会 中学校道徳指導資料【わたしたちの郷土をみつめて】）
ねらい：郷土をつくりあげてきた伝統や文化を大切にし、その発展に尽くそうとする意欲を育てる。

主題・ねらいと教材について

内容項目4 - (8)は「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」である。

中学生の時期に、今、自分たちが生活している郷土をつくりあげてきた伝統や文化を、今後の人々のためにより発展させて引き継いでいこうとする意欲をもたせることは極めて大切なことである。

この資料は、平成11年に岩手県教委が発行した道徳の読み物資料の一つである。神楽の練習に取り組んだときの中学生の作文を基に作られているが、神楽の練習に取り組んだ中学生である「わたし」の気持ちを考えさせることで、自分が郷土の発展のためにできることは何かを考えさせられる資料である。

しかし、神楽に対する認識は地域によって様々であり、神楽を自ら体験している生徒が多い場合は身近な内容であるが、全く体験がない場合は興味をもちにくく、自分の郷土としての意識をもって考えにくい内容であると思われる。

そのため、資料へ興味をもたせ、神楽以外の自分が知っている身近な郷土芸能を想起させながら、自分のこととして具体的に考えさせていくために、郷土芸能について紹介する補助資料を用意し、神楽以外の岩手の郷土芸能を紹介し、神楽が身近な郷土芸能の一つであることを理解させていくことで、自分たちの郷土についての考えを深めようとする意識をもたせられる授業展開とした。

さらに、心のノートを活用することでねらいが明確になり、道徳的实践意欲を高められる授業展開とした。

実践した授業では、さんさ踊りでの体験を思い出しながら自分を見つめ直し、これからはふるさとの様々な郷土芸能を体験して伝えていきたい、という思いを生徒がもつなど、道徳的实践意欲の高まりが見られた。

実践したときの生徒・先生の声

- ・補助資料が豊富で、生徒は伝統芸能にどっぷり浸っていた。多くの生徒が興味をもっているように感じた。
(授業実践した先生の声)
- ・発問に対して、生徒たちはあまり悩まずに答えられていた。伝統芸能はものすごく遠いものだと思うので、その割には、よく考えていた。(授業実践した先生の声)
- ・わたしたちの住んでいる岩手に、こんなにいろいろな郷土芸能があるなんてびっくりした。たくさんの郷土芸能を体験してみたいと思った。(生徒の声)
- ・資料を見て、郷土芸能が岩手にはたくさんあるけれど、ほんの一部しか知らなかった。これから、だんだんと岩手の郷土芸能を知って、どれか一つぐらいは体験してみたい。(生徒の声)

こんなときに授業をしてみてもいいよ…(対象学年1～3年生、授業実践学年1・3年生)

- ・授業参観で、保護者や地域住民を巻き込んだ授業を行いたいとき。
- ・地元の郷土芸能が行われる(夏祭りや郷土芸能の発表会がある)時期に体験を思い出させながら。
- ・副読本の「郷土愛」を扱った読み物資料に替えて。

ウ 略案

【資料4】に『「幻の神楽」復活への道のり』の略案を示す。1つの教材に対してアプローチの違う指導方法がすべてわかる一覧表の形で示す。指導方法には便宜的にA, B, Cをつけて表す。

【資料4】略案

教材名：「幻の神楽」復活への道のり						
	指導方法A (ワークシート 全員発表)		指導方法B (発問 全員発表)		指導方法C (グループの話合い)	
	学習内容(発問)	指導上の留意点	学習内容(発問)	指導上の留意点	学習内容(発問)	指導上の留意点
導入	1 神楽を知っているかの確認(体験) 2 補助資料の説明	・補助資料を使い神楽と神楽以外の郷土芸能についての紹介をする。	1 神楽を知っているかの確認(体験) 2 補助資料の説明	・補助資料を使い神楽と神楽以外の郷土芸能についての紹介をする。	1 神楽を知っているかの確認(体験) 2 補助資料の説明	・補助資料を使い神楽と神楽以外の郷土芸能についての紹介をする。
展開	3 教師範読とあらすじの確認(紙板書) 4 発問が記入されたワークシートへの記入 自分の自由な時間が束縛されるために、練習の参加に乗り気でない「わたし」をどう思うか。 どうして「わたし」は「何とか自分たちの手で幻の神楽を復活させてやろう」という気持ちになったのか。 神楽の発表会を終えて、私はどのようなことを感じていると思うか。 5 記入内容を全員発表	・ワークシートへの記入時間を考慮し、発問を3つとする。 ・全員の記入が完了していなくても、時間になったら発表を始める。 ・記入できているところは挙手で発表するように促し、全員に発表させる。 ・発表を聞きながら、ワークシートに書き加えるようにさせる。	3 教師範読とあらすじの確認(紙板書) 4 私の気持ちを考え発表する。 自分の自由な時間が束縛されるために、練習の参加に乗り気でない「わたし」をどう思うか。 みんなの力で復活させよう」という励ましを聞いて、「わたし」はどのような気持ちになったと思うか。 「わたし」が感じた不思議な気持ちとは、どのような気持ちか。 神楽の発表会を終えて「わたし」はどのような気持ちになったと思うか。	・発問に対して、その場で考えさせながら発表させていく。 ・考えさせる時間を確保しながら全員に1回以上発表させる。	3 教師範読とあらすじの確認(紙板書) 4 私の気持ちを考え発表する。 自分の自由な時間が束縛されるために、練習の参加に乗り気でない「わたし」をどう思うか。 どうして「わたし」は「何とか自分たちの手で幻の神楽を復活させてやろう」という気持ちになったのか。 神楽の発表会を終えて、私はどのようなことを感じていると思うか。	・発問に対して、その場で考えさせながら発表させていく。 ・考えさせる時間を確保しながら全員に発表させる。 ・終末でのグループの話合いの時間確保のため、発問を3つとする。
終末	6 補助資料の説明 7 心のノートへの記入 8 記入内容の発表 9 記入内容の学級掲示(プリントを回収して掲示物にする。)	・「黄金の国、いわて。」の中から「伝承の国」を読み、岩手の郷土芸能について紹介する。 ・心のノートを印刷したプリントに記入させ、発表させることで本時を締めくく。	5 補助資料の説明 6 心のノートへの記入 7 記入内容の発表 8 記入内容の学級掲示(プリントを回収して掲示物にする。)	・「黄金の国、いわて。」の中から「伝承の国」を読み、岩手の郷土芸能について紹介する。 ・心のノートを印刷したプリントに記入させ、発表させることで本時を締めくく。	5 補助資料の説明 6 心のノートの内容についてグループ(班あるいは4人)ごとの話合い 7 話合い内容の発表 8 話合い内容の学級掲示(プリントを回収して掲示物にする。)	・「黄金の国、いわて。」の中から「伝承の国」を読み、岩手の郷土芸能について紹介する。 ・グループごとに心のノートの内容を話し合わせ、発表させて本時を締めくく。

エ 授業展開案

『「幻の神楽」復活への道のり』を教材とする指導方法ごとの展開案を示す。【資料5】は、ワークシート活用後に全員が発表する授業展開案、16頁の【資料6】は発問をしながら全員が発表する授業展開案、17頁の【資料7】は終末でグループの話合いをする授業展開案を示す。

授業展開案にはアプローチの仕方も示すため、通常の学習指導案よりも指導上の留意点を多く記入する。また、授業のポイントも示し、できるだけ再現しやすいように配慮する。

【資料5】指導方法A（ワークシート 全員発表）の展開案

教材名：「幻の神楽」復活への道のり 指導方法A（ワークシート 全員発表）			
	学習活動・発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 7分	1 神楽を知っているかの確認（体験） 2 補助資料の説明		<ul style="list-style-type: none"> 神楽を「知っている」「踊ったことがある」かどうか挙手をさせ、知っている生徒には簡単に発表させる。知らない生徒がほとんどであると思われるので、話題に出す程度で、時間をかけすぎる必要はない。 補助資料を音読することで、神楽と神楽以外の郷土芸能についての紹介をする。
展開 27分	3 教師範読とあらすじの確認（紙板書）（8分） 4 発問が記入されたワークシートへの記入（6分） 自分の自由な時間が束縛されるために、練習の参加に乗り気でない「わたし」をどう思うか。 どうして「わたし」は「何とか自分たちの手で幻の神楽を復活させてやろう」という気持ちになったのか。 神楽の発表会を終えて、私はどのようなことを感じていると思うか。 5 記入内容を全員発表（12分）	<ul style="list-style-type: none"> 自由な時間が束縛されるのは嫌だ。気持ちわかる。（共感） 神楽の歴史の重さを感じた。 自分たちがやらないと誰がやるんだ。 やり続けて良かった。これからも踊り続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 範読後、板書内容に沿ってあらすじを確認する。 あらすじの確認をしながら、紙板書を貼っていく。 板書は紙でなくても良いが、板書計画に従い吹き出し等は再現して欲しい。 あらすじの確認を行ったら、ワークシートをわたして考えさせる。 ワークシートへの記入時間を考慮し、発問を3つとする。 全員の記入が完了していなくても、時間になったら発表を始める。 記入できているところは挙手で発表するように促し、全員に発表させる。 発表を聞きながら、ワークシートに書き加えるようにさせる。 同じような考えを記入している人はいないかを問いかけながら発表させていくと、挙手も出やすい。 生徒の発表を聞きながら、板書計画を参考に簡単に追加の板書をする。
終末 16分	6 補助資料の説明(5分) 7 心のノートへの記入（5分） 8 記入内容の発表（4分） 9 記入内容の学級掲示（プリントを回収して掲示物にする。）	<ul style="list-style-type: none"> 岩手の知らないことを知れてよかった。 岩手の様々な郷土芸能を体験したいし、伝えたい。 郷土のために何か自分も役に立ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「黄金の國、いわて。」の中から「伝承の國」を範読し、岩手の郷土芸能について紹介する。 心のノートを印刷したプリントを配布し、内容を音読する。（生徒の音読でも良い。） 心のノートを印刷したプリントに記入させ、時間が来たら数人に発表させて本時を締めくくる。

授業のポイント

補助資料は、丁寧に音読するが時間をかけすぎない…本時は岩手の郷土芸能を詳しく知ることにより、郷土の発展のために尽くそうとする意欲を引き出そうとする授業展開であるので、補助資料は丁寧に音読（範読）したい。補助資料そのものから生徒一人一人に感じとらせたいために、範読後は説明を加えないようにしたい。心のノートへの記入内容は出来るだけ多くの生徒に発表させる…展開部分でも全員に発表させているが、心のノートの記入内容の発表にはそれほど時間もかからないので、時間がある限り多くの生徒に発表させたい。

【資料6】指導方法B（発問 全員発表）の展開案

教材名：「幻の神楽」復活への道のり 指導方法B（発問 全員発表）			
	学習活動・発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 7分	1 神楽を知っているかの確認（体験） 2 補助資料の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・神楽を「知っている」「踊ったことがある」かどうか挙手をさせ、知っている生徒には簡単に発表させる。知らない生徒がほとんどであると思われるので、話題に出す程度で、時間をかけすぎる必要はない。 ・補助資料を音読することで、神楽と神楽以外の郷土芸能についての紹介をする。
展開 27分	3 教師範読とあらすじの確認（紙板書）（8分） 4 私の気持ちを考え、発表する。（19分） 自分の自由な時間が束縛されるために、練習の参加に乗り気でない「わたし」をどう思うか。 「みんなの力で復活させよう」という励ましを聞いて、「わたし」はどのようなことを感じたと思うか。 「わたし」が感じた不思議な気持ちとは、どのような気持ちか。 神楽の発表会を終えて「わたし」はどのようなことを感じていると思うか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な時間が束縛されるのは嫌だ。気持ちがわかる。（共感） ・みんなと何としても復活させたい。 ・復活に向けての強い決意。 ・神楽の歴史の重さを感じた。 ・やり続けて良かった。これからも踊り続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読後、板書内容に沿ってあらすじを確認する。 ・あらすじの確認をしながら、紙板書を貼っていく。 ・板書は紙でなくても良いが、板書計画に従い吹き出し等は再現して欲しい。 ・発問に対して、その場で考えさせながら発表させていく。 ・考える時間を確保しながら全員に1回以上発表させる。 ・同じような考えの人はいないかを問いかけながら発表させると、挙手が出やすい。 ・生徒の発表を聞きながら、板書計画を参考に簡単に追加の板書をする。
終末 16分	5 補助資料の説明（5分） 6 心のノートへの記入（5分） 7 記入内容の発表（4分） 8 記入内容の学級掲示（プリントを回収して掲示物にする。）	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手の知らないことを知れてよかった。 ・岩手の様々な郷土芸能を体験したいし、伝えたい。 ・郷土のために何か自分も役に立ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「黄金の國、いわて。」の中から「伝承の國」を範読し、岩手の郷土芸能について紹介する。 ・心のノートを印刷したプリントを配布し、内容を音読する。（生徒の音読でも良い。） ・心のノートを印刷したプリントに記入させ、時間が来たら数人に発表させて本時を締めくくる。
授業のポイント 補助資料は、丁寧に音読するが時間をかけすぎない…本時は岩手の郷土芸能を詳しく知るにより、郷土の発展のために尽くそうとする意欲を引き出そうとする授業展開であるので、補助資料は丁寧に音読（範読）したい。補助資料そのものから生徒一人一人に感じとらせたいために、範読後は説明を加えないようにしたい。心のノートへの記入内容は出来るだけ多くの生徒に発表させる…展開部分でも全員に発表させているが、心のノートの記入内容の発表にはそれほど時間もかからないので、時間がある限り多くの生徒に発表させたい。			

【資料7】指導方法C（グループの話合い）の展開案

教材名：「幻の神楽」復活への道のり 指導方法C（グループの話合い）			
	学習活動・発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 7分	1 神楽を知っているかの確認（体験） 2 補助資料の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・神楽を「知っている」「踊ったことがある」かどうか挙手をさせ、知っている生徒には簡単に発表させる。知らない生徒がほとんどであると思われるので、話題に出す程度で、時間をかけすぎる必要はない。 ・補助資料を音読することで、神楽と神楽以外の郷土芸能についての紹介をする。
展開 22分	3 教師範読とあらすじの確認（紙板書）（8分） 4 私の気持ちを考え、発表する。（13分） 自分の自由な時間が束縛されるために、練習の参加に乗り気でない「わたし」をどう思うか。 どうして「わたし」は「何とか自分たちの手で幻の神楽を復活させてやろう」という気持ちになったのか。 神楽の発表会を終えて、私はどのようなことを感じていると思うか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な時間が束縛されるのは嫌だ。気持ちがわかる。（共感） ・神楽の歴史の重さを感じた。 ・自分たちがやらないと誰がやるんだ。 ・やり続けて良かった。これからも踊り続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読後、板書内容に沿ってあらすじを確認する。 ・あらすじの確認をしながら、紙板書を貼っていく。 ・板書は紙でなくても良いが、板書計画に従い吹き出し等は再現して欲しい。 ・後半での話合いの時間確保のため、テンポ良く進める。 ・発問に対して、その場で考えさせながら発表させていく。 ・考える時間を確保しながら全員に発表させる。 ・終末でのグループの話合いの時間確保のため、発問を3つとする。 ・同じような考えの人はいないかを問いかけながら発表させていくと、挙手も出てくる。 ・生徒の発表を聞きながら、板書計画を参考に簡単に追加の板書をする。
終末 21分	5 補助資料の説明（5分） 6 心のノートの内容について個人で記入（5分）後、グループ（班）ごとの話合い（6分） 7 話合い内容の発表（2分） 8 話合い内容の学級掲示（プリントを回収して掲示物にする。）	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手の知らないことを知れてよかった。 ・岩手の様々な郷土芸能を体験したいし、伝えたい。 ・郷土のために何か自分も役に立ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「黄金の國、いわて。」の中から「伝承の國」を範読し、岩手の郷土芸能について紹介する。 ・心のノートを印刷したプリントを配布し、内容を音読する。（生徒の音読でも良い。） ・心のノートを印刷したプリントに記入させ、時間が来たら班隊形で意見交流をさせる。 ・班で話合い、班として一枚の用紙にまとめ、掲示できるように記入させる。 ・班隊形を戻し、班長に話合いの内容をその場で発表させて授業を締めくくる。

授業のポイント

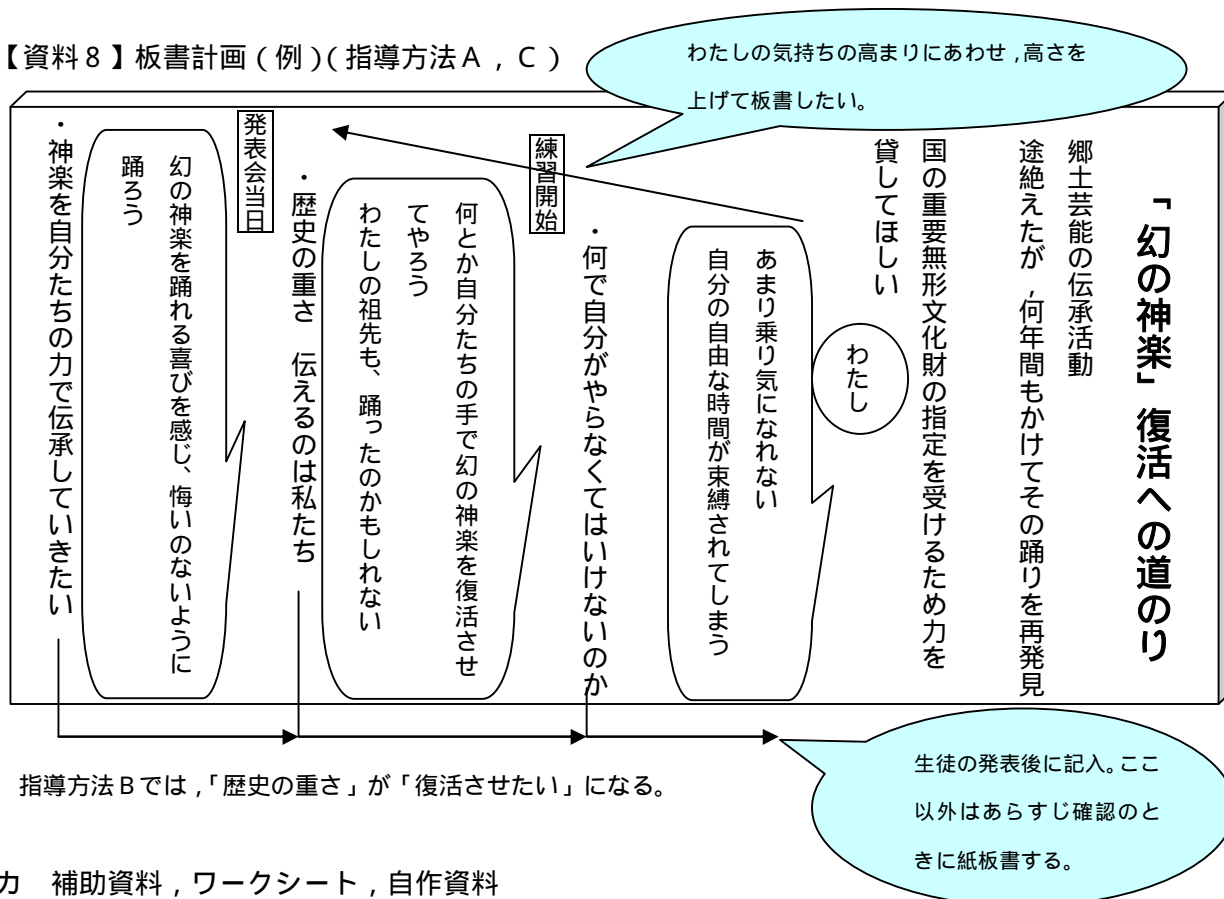
補助資料は、丁寧に音読するが時間をかけすぎない・・・本時は岩手の郷土芸能を詳しく知ることにより、郷土の発展のために尽くそうとする意欲を引き出そうとする授業展開であるので、補助資料は丁寧に音読（範読）したい。補助資料そのものから生徒一人一人に感じとらせたいために、範読後は説明を加えないようにしたい。グループの話合いでは、出来るだけ具体的なことを出させる・・・一人一人、ふるさとに自分ができていることを考えた後の話合いであるので、具体的に何が出来るか、実際に出来るようなことを話合わせ、意欲を高めたい。（班の考えを記入する用紙を、班ごとに1枚ずつ渡しておく必要がある。）

授業参観の時は、終末で保護者（地域）の方たちにもグループごとに話し合っていたり、一人一人に考えていただいたりして、班長の後に続けて発表を行ってもらい展開も可能である。「郷土」に対する思いは、世代を超えて同じであることが実感できる。「郷土」にできることについてという内容であれば、事前の連絡等がなくても保護者は考えやすい内容であると思われる。また、町内会長など地域活動の中心になっている方が参観している場合は、授業の最後に、生徒の発表を聞いた感想を短く述べていただくことも可能である。保護者（地域住民）の参加を考える場合は、時間の確保が必要であるため、導入で補助資料の紹介を省略する、範読とあらすじ確認をかなりテンポ良く行う等、前半で少なくとも7分程度の時間を確保し、終末の時間に余裕をもたせたい。

オ 板書計画

アプローチの違いにより、発問の内容が一部異なることもあるため、【資料8】に示す板書計画(例)のように、同じ教材であっても板書内容が一部変わる場合もある。

【資料8】板書計画(例)(指導方法A, C)



カ 補助資料，ワークシート，自作資料

実践事例集には板書計画のあとに、印刷すれば使える形にまとめた補助資料，ワークシート，自作資料を綴じ込む。

(3) 実践事例集の活用

現在、実践事例集には12頁の【資料1】の目次に示す、20の授業展開案の提案を検討している。加えて、授業実践をとおして得られたアプローチの有効性を生かした新しい教材の授業展開案も作成し、提案する予定である。

教師が生徒の実態と自分自身の指導の実態を考えて指導方法を選択できるよう、提案する実践事例集には一つの教材につきアプローチの違う複数の授業展開案を示す。複数の授業展開案の中から、授業で使う展開案を選択するときは、いつもと違う指導方法に挑戦しようという教師の意欲を重視する場合と、生徒の今までの実態を考慮し、生徒が落ち着いて考えられる指導方法を重視し選択する場合が考えられる。

また、授業参観日などで保護者や地域住民を巻き込んで展開していける指導方法の提案も行い、年間35時間の道徳の授業のどこかの場面で活用してもらえるような実践事例集とする。

4 道徳の時間の指導の充実に関する研究のまとめ

本研究は、中学校における道徳の時間の指導の充実を図るために、教材や補助資料，心のノートの活用や指導過程など、アプローチを工夫した実践事例集を作成して提示し、道徳の時間の指導の充実を図ろうとするものであった。成果と課題を以下にまとめる。

(1) 成果

- ア 研究者と担任による授業実践をとおして、アプローチの有効性とアプローチの仕方の工夫はどのようにすればよいかを検討することができた。また、それらの実践結果を基に、生徒が自分の問題として主題を受け止めることができるような道徳の時間の様々な指導方法をまとめることができた。
- (ア) 様々なアプローチを工夫した研究者と担任による授業に対して生徒は意欲的な姿勢を示し、自分自身と向き合いながら考えを深めることができた。
- (イ) 教科の授業と同様に道徳の授業でも、自分の知らなかったことを知った喜びは、生徒にとって大きなものであった。補助資料から今まで知らなかった事実が知れたり、普段聞くことができない学級全員の考えが聞けたりすることは、指導者の説話よりも説得力をもち、生徒に大きな驚きや感動を与えた。
- (ウ) 「中学校学習指導要領解説道徳編(2008)」で述べられている、生徒への表現の機会の充実を図ることを意識した授業では、授業を進めていく中で生徒の発表に対する抵抗感が徐々になくなり、多くの発表や意見の交流をすることができた。また、楽しみながら自分の考えを表現している様子も見られた。
- イ 多くの先生方による授業参観や授業実践をとおして、所属校の先生方と共に生徒にとって魅力ある道徳の時間の指導の在り方について、検討を重ねることができた。
- (ア) アプローチの仕方を工夫した授業に対して、どのようにすれば生徒がより深く考えるのか、よりよい授業を共に作ろうという意識をもって授業参観をしてもらえたため、改善点が明確になった。
- (イ) 全学級の担任が、全学級で違う指導方法の授業に対して前向きに取り組んだことにより、道徳の授業の在り方について、改めてお互いに考える機会になった。また、新たな指導方法への手応えを担任と共に感じる事ができた。

(2) 課題

- ア 担任による授業実践から、授業展開案を再現するためにはアプローチの仕方を示した指導上の留意点への記述が重要であることがわかったため、再現しやすい授業展開案の示し方に検討を重ねる必要がある。
- イ 多くの生徒や教師の実態に対応していくためには、提示する授業展開案が多い方がいいため、新たな教材やねらいの授業展開案を作る必要がある。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

様々なアプローチの仕方を工夫した道徳の授業は、生徒の道徳的実践力の育成を図ることに有効であり、道徳の時間の指導の充実のために有効であることが確かめられた。

2 今後の課題

教師が再現しやすい提示の仕方を一層検討し、教員の個性を生かす指導方法が選べるような実践事例集に仕上げたい。また、アプローチの有効性を生かした展開案を新たに作成し、実践事例集の広い活用につなげたい。

<おわりに>

この研究を進めるに当たり、忙しい中ご協力いただきました所属校の先生方、生徒の皆さん、自作資料作成のために資料提出等のご協力をしてくださいました方に心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

文部科学省（2008）,『中学校学習指導要領解説 道徳編』

【参考文献】

岩手県教育委員会（1999）,『中学校道徳指導資料「わたしたちの郷土をみつめて」』

斎藤賢二（2003）,「役割演技の効果的な活用」,『道徳と特別活動』10月号,ぶんけい

谷田増幸（2008）,「答申（中央教育審議会）における道徳教育の改善の方向性」,『道徳と特別活動』4月号,ぶんけい

永田繁雄（2008）,「道徳の時間が「要」となる確かな道徳教育へ」,『道徳教育』4月号,明治図書

永田繁雄（2007）,「「心のノート」のよさを道徳授業に織り込む」,『道徳教育』1月号,明治図書

荻原武雄（2006）,「道徳授業の基礎講座「道徳の授業展開のマニュアル」を考える ～」,『道徳教育』10月号～12月号,明治図書

諸富祥彦編（2005）,『道徳授業の新しいアプローチ10』,明治図書

文部科学省（2002）,『中学校 心のノート 活用のために』

文部科学省（2003）,『「心のノート」を生かした道徳教育の展開 - 「心のノート」活用事例集 - 』